

☆自家発電機を無償提供へ 人工呼吸器の患者に

朝日新聞デジタル 2019年1月15日 東京

<https://digital.asahi.com/articles/ASM1G5JTQM1GUTIL00W.html?fbclid=IwAR2fPTVtEXDgb2cavEWbN Z84Xg T 4myKYrlShF79ngfrDhdTGg8x5w9eQ>

> 東京都八王子市は、自宅で常に人工呼吸器が必要な重い病気の患者らに、災害時の停電対策として自家発電機を無償で提供する。昨年9月の北海道地震でほぼ道全域が長時間停電になったことを教訓に、在宅患者を支援する都の補助金を活用して対策に乗り出す。

都によると、都の制度を使って患者個人に自家発電機を提供する区市町村は初めて。八王子市が提供を検討しているのは高さ、幅、奥行きがそれぞれ30～50センチ程度で、LPガスを燃料に使う1台11万円の機種など。バッテリーをいっぱい充電すると、人工呼吸器を数時間～12時間程度動かせる。カセットボンベや予備のバッテリーを患者側の負担で用意してもらい、3日間程度の停電をしのいでもらう。

人工呼吸器を使う在宅患者は、停電が長時間に及ぶと生命の危険にさらされる。東日本大震災直後の停電やその後の計画停電でも対策が課題になった。都は2012年にまとめた指針の中で、事前に区市町村が患者一人ひとりの状況を把握し、「個別支援計画」を作っておくよう求めた。

八王子市が計画を作った患者は47人。このうち別の制度や自費で確保した人を除く11人に自家発電機を提供する。先天性の病気、脊髄（せきずい）損傷などの人たちで、子どもが多いという。

2月にも患者宅に届け、保健師が家族に使い方を指導したり、定期的に試運転をしてもらったりする。予備を含む14台の購入費166万円を盛り込んだ補正予算案が昨年12月の市議会で可決された。都が半額を負担する。

都内では新宿区、目黒区、世田谷区が都の補助金を活用したり、独自に費用を工面したりして、自家発電機を保健所に置くなどしている。停電時に患者の家族らにバッテリーを持参してもらい充電する。

八王子市では、患者の家族らに日頃から予備のバッテリーを充電しておくよう呼びかけてきた。停電が長引いて自宅にすることが難しい患者が出たら、入院先を探して搬送することになっているが、円滑に対応できるかどうか不安があった。また、面積が都内の区市で最も広く、停電時に充電のために患者の家族に出てきてもらうのは難しい場合があるとみて、自家発電機を提供することにした。

…などと伝えています。

△平成30年度八王子市在宅人工呼吸器使用者災害対策事業のご案内

八王子市公式ホームページ 健康部保健対策課 平成30年12月26日

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/hoken/007/013/p024350.html?fbclid=IwAR12Cho2zxPZTakKqfXTekq2rNVuCXyGn731NaHKvW7 0xPAX6Yj 7D FU4>

> 八王子市では災害等における停電により、生命の危機に直結するおそれのある在宅人工呼吸器使用者に対し、停電時における電力の確保を図るため、自家発電機を給付しています(ただし、対象となる方には条件があります)。

…などと掲載されています。